

# 第3回日中韓ジオサミット開催報告(2)： 洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパーク地質巡検

宝田 晋治<sup>1)</sup>・渡辺 真人<sup>2)</sup>

## 1. はじめに

2019年7月29～31日の日程で、北海道札幌市において、中国地質調査局(CGS)、韓国地質資源研究院(KIGAM)、産総研地質調査総合センター(GSJ)による第3回日中韓ジオサミットが開催されました(内田・最首, 2020)。3日目の7月31日には、洞爺湖有珠山ユネスコ世界ジオパークを見学する地質巡検が行われ、海外からのジオサミット参加者30名全員と地質調査総合センターから11名、合計41名が参加しました。地質巡検では、三松正夫記念館、昭和新山、有珠山展望台(第1図)、火山博物館、2000年噴火遺構公園、西山山麓火口散策路(第2図)を見学し、洞爺有珠火山の地質、噴火史、火山防災対応等について、様々な議論が行われました。ここでは、巡検の概要を紹介します。

## 2. 三松正夫記念館と昭和新山

巡検では、まず三松正夫記念館(第1図; Stop 1-1)と昭和新山(Stop 1-2)を訪れました。三松正夫記念館では、三松三朗館長の案内で、1943-45年の昭和新山を形成した一連の火山活動や1977-78年の有珠山の火山活動の展示を見学しました(写真1)。参加者は特にオリジナルの三松ダイヤモンドを興味深く見学していました。昭和新山の前で記念撮影(写真2)を行った後、昭和新山の1943-45年の活動で形成された多数の火口跡の1つを訪れました。ここでは、昭和新山の形成時の隆起によってこの地点まで持ち上げられた河床円礫や、デイサイト溶岩、溶岩ドームの噴気の様子などを見学しました(写真3)。



第1図 地質巡検午前の観察地点(背景地図は、地理院地図を使用)。

1) 産総研 地質調査総合センター 活断層・火山研究部門

2) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門

キーワード：ジオサミット、洞爺湖、有珠山、ジオパーク、地質巡検



第2図 地質巡検午後の観察地点（背景地図は、地理院地図を使用）。



写真1 三松正夫記念館の見学。手前が三松三朗館長。

### 3. 有珠山ロープウェイ山頂駅、火口原展望台

火口跡の観察後、有珠山ロープウェイで、昭和新山から山頂駅に向かいました。山頂駅の展望台（第1図；Stop 2-1）では、洞爺湖、昭和新山などを見ながら、宝田が有珠山の噴火履歴の解説を行いました。さらに15分ほど歩いて、火口原展望台（Stop 2-2）に行き、大有珠、有珠新山、小有珠の溶岩ドーム群、1977-78年噴火の銀沼火口、山

麓の洞爺火砕流堆積物などを見ながら、有珠山の噴火史について、解説、議論を行いました（写真4、5）。

### 4. 洞爺湖ビジターセンター、2000年噴火遺構

洞爺湖温泉街のわかさいもレストランで昼食を取った後、岡田 弘名誉教授の案内で、洞爺湖ビジターセンター（第2図；Stop 3-1）内の火山科学館を見学し、1977-78



写真2 昭和新山前での集合写真.



写真3 昭和新山火口跡での有珠火山の解説.



写真4 火口原展望台での有珠火山の解説.



写真5 火口原展望台での集合写真. 後ろは大有珠溶岩ドーム.

年噴火や2000年噴火の展示を見て回りました(写真6)。また、2000年噴火の映像などを見学しました。洞爺湖温泉街は2000年噴火時には噴石や熱泥流などによる被害が起こった地域です。2000年噴火遺構公園(Stop 3-2)では、熱泥流で2000年4月に流された国道230号線の橋や、噴石や泥流による被害を受けた建物を見学しました。岡田氏による詳細な噴火対応の解説には、参加者から多くの質問がなされました(写真7)。

## 5. 西山山麓火口散策路

最後に、西山山麓火口散策路(第2回; Stop 4-1)にお

いて、2000年噴火による変動地形、火口群、噴石による被害の様子を見学しました。始めに、散策路北側にある消防署跡で、歴史時代の1769年、1822年、1853年噴出物の剥ぎ取りや噴火の写真を見学すると共に、2000年噴火による潜在ドームの貫入でやや傾いた建物を体感しました。そして、散策路を歩いて、噴火で形成されたN-B火口、旧国道230号線(写真8)、地溝状に大きく変形した道路や建物(写真9)、噴石によって被災した旧とうやこ幼稚園(Stop 4-2)を見学しました。旧とうやこ幼稚園では、ジオパーク推進協議会の加賀谷氏、西氏らにより、推進協議会の活動内容の紹介も行われました(写真10)。



写真6 ビジターセンター内の火山科学館の見学。岡田氏による解説。



写真7 噴火遺構の見学。右後ろは、2000年噴火の泥流で被害を受けた建物。



写真8 旧国道230号線付近での岡田氏による2000年噴火の解説の様子。



写真9 西山麓火口散策路での集合写真。後ろは、2000年噴火による噴石、潜在ドームの貫入による変形で被災した旧わかさいも工場。



写真10 旧とうやこ幼稚園において、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会の活動の説明を行う加賀谷氏（後方）と西氏（手前）。

## 6. おわりに

今回の地質巡検では、北海道大学名誉教授・環境防災総合政策研究機構の岡田 弘氏、三松正夫記念館の三松三朗氏、洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会の加賀谷にれ氏、西 勇樹氏に、巡検の下見、案内書の作成、巡検当日の解説など、大変お世話になりました。ここに記して感謝致します。

## 文 献

内田利弘・最首花恵 (2020) 第3回日中韓ジオサミット開催報告 (1): 本会議. GSJ 地質ニュース, 9, 64-69.

TAKARADA Shinji and WATANABE Mahito (2020) The 3rd Trilateral GeoSummit Summary Report (2): Field Excursion of Toya-Usu UNESCO Global Geopark.

(受付: 2019年12月27日)